

夏も過ぎ高原には秋の気配がただよい始めました、植物も子孫を残すためいろいろの手段を考えてやってきます。なかでも多いのが粘着性をもつ種子をつくるタイプのものです。

子どもの頃、「ばかがついた」といってよく遊んだ記憶があります、当時は写真にはないタイプで、先端が筆の先みたいなのがついたダーツの矢もどきを相手になげつけ、相手の衣服につけばうれしかった記憶があります。

その「ばかがついた」の「ばか」を拡大解釈？して、なんでもつく種をすべてばかと呼んできました。高原には写真にあるタイプの他あと数種類は存在します、山での散歩や、整備作業で衣服に付きやすく取りづらい順に番号を付けて見ました。NO1～3は御三家で粘着性も強く強敵です、特にNO3は細かいため多くつくと手ではなかなかとれずにガムテープなどを使って落とします。

「ばか」という地域は全国各地にあるようですが、一般的には「ひつつき虫」「くつつき虫」と言う。



<衣服の付着する種>

NO. 1と NO. 3とNO. 5 の植物名はわかりましたので簡単に紹介します。

NO. 1はムスビトハギ(盗人萩)

【マメ科・ヌスビトハギ属の多年草】

実の形が盗人のしのび足(足裏の外側だけをつけて歩く)のような形に見えるからなのでこの名前がついたとも、熟した実が知らぬ間に衣服に付着してくるのでこの名前がついたという説がある。

NO. 3はチヂミグサ

NO. 5はミズヒキ(水引)

【タデ科・ミズヒキ属の多年草】

小花の色は上半身が赤色、下半身は白色、この紅白に見える花序が「水引」に似ていることからこの名前がついた。